

## 翻訳学的観点から探る近代日本哲学研究

### 研究概要:

ヨーロッパで形成されている翻訳学という新しい領域に、近代日本哲学を位置づけ、同時に近代日本哲学に新たな方法論を提案することを研究の目的としている。近代日本哲学の誕生と発展は、西洋哲学の導入と消化なくしては起こり得なかった。この事実を基軸とすると、翻訳という視点は、容易に哲学の問題を交差させることができる。実は、このようなことはすでにフランスの翻訳理論において考察されている。これまでは、個人的に、日本、海外の日本哲学研究者との学会や研究会に参加し、また一方では海外の翻訳学研究者との交流を深めてきた。今後は、二つの領域の研究者の間の交流、また日本と海外の研究者との思想に関する対話が、翻訳研究を通して実現するように努めたい。日本は、近代以降、世界でも翻訳出版の多い国として知られているが、翻訳の理論的な面はあまり深く研究されてきていないようである。この点からしても、翻訳研究について行うべきことはいくらでもあると思われる。

研究担当者: 上原麻有子

専門とする外国語: フランス語、英語